



2021年も残りわずか。この1年に起きたニュースを振り返るとともに、その後を追った。

千葉県八街市で6月、歩いて下校中の小学生の列に飲酒運転のトラックが突っ込み、児童2人が死亡、3人がけがを負った事故では、危険な通学路への早急な対策とともに、ドライバーの飲酒運転に対する認識

が改めて問われた。元運転手の男(61)の公判では、アルコール依存をうかがわせる証言も相次ぎ、専門家は「周囲の正しい理解と介入が必要だ」と指摘する。

### ① 千葉の飲酒運転事故

置き、速度低下など一定の効果を上げているが、設備面の対策とともに欠かせないのが飲酒運転を防ぐ取り組みだ。依存症を支援するNPO法人「ASK」の今成知美代表は、公判での被告の証言からアルコール依存症が推認されると指摘。「『イ

## 依存症に理解と介入を

通行速度に特段の制限がなく「抜け道」として使われ交通量も多かった事故現場の市道では、県警が8月、時速30キロの制限や大型車両の通行規制を開始。道路を凸状に隆起させる「ハンプ」や、狭くする「狭窄」も設

2回「飲むとストレスが落ち着いた」。自動車運転処罰法違反(危険運転致死傷罪)に問われた元運転

ライラする』や『(酒は)お守りみたいなもの』などの表現は依存症における離脱症状である可能性も考え

今成代表は「アルコール依存症は『だらしない、弱い』というイメージが先行しているが、症状に共通認識を持った家族や勤務先がチームで介入し、専門家に相談することが重要だ」と訴えた。



事故現場付近に設置された「ハンプ」=7日、千葉県八街市

千葉の飲酒運転事故 起訴状によると、運転手は勤務中、高速道路のパーキングエリアに止めたトラック内で飲酒し、その後職場へ戻る途中居眠り状態に陥り小学生の列に突っ込んだとされる。事故後各地で危険な通学路の再点検が行われた。